

新規事業採択時評価結果（平成31年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全・防災課  
担当課長名：野田 勝

事業の概要

事業名	高規格ICアクセス 主要地方道 竜ヶ崎阿見線	事業区分	地方道	事業主体	茨城県
起終点	自：茨城県牛久市 久野 至：茨城県牛久市 正直	延長	3.1km		
<p><b>事業概要</b></p> <p>主要地方道竜ヶ崎阿見線は、龍ヶ崎市と阿見町を結び、県南地域の振興に大きく寄与する幹線道路である。当該バイパスは、圏央道阿見東インターチェンジへのアクセス向上等を目的に、圏央道の4車線化の整備と併せ3.1kmの道路を整備するものである。</p>					
<p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>圏央道が2024年までに4車線化整備の完成の見通しが示されていることから、当該事業の整備により、今後、増加する交通量に対し円滑な交通の確保が図られる。また、物流の効率化や企業立地の促進に寄与することが期待されている。</p>					
全体事業費	83億円	計画交通量	15,200台/日		
<p><b>事業概要図</b></p>					

<p><b>関係する地方公共団体等の意見</b></p> <p>牛久市、龍ヶ崎市から早期開通の要望をされている。</p>
--

<p><b>学識経験者等の第三者委員会の意見</b></p> <p>学識経験者意見聴取の結果、新規事業化は妥当であると評価。</p>
--

<p><b>事業採択の前提条件</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>費用対便益：便益が費用を上回っている。</li> <li>地元自治体から早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。</li> </ul>
---

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.9	<p>総費用 65億円</p> <p>事業費：63億円</p> <p>維持管理費：2.0億円</p>	<p>総便益 123億円</p> <p>走行時間短縮便益：123億円</p> <p>走行費用減少便益：0.1億円</p> <p>交通事故減少便益：0.1億円</p>	基準年 平成30年度	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.7 (交通量 -10%)	B/C=2.1 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.7 (事業費 +10%)	B/C=2.1 (事業費 -10%)		
		事業期間変動	B/C=1.9 (事業期間 +20%)	B/C=1.9 (事業期間 -20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	通過交通の転換により混雑が緩和 【交通渋滞の緩和】 ・渋滞損失時間が12.1万人時間/年減少 ・龍ヶ崎市街地や付近の工業団地から阿見東ICを利用する交通車両により、正直町交差点において、発生している慢性的な渋滞が緩和。		
		事故対策	○	・市街地に流入していた交通が転換され、交通の安全や良好な生活環境が確保。		
		歩行空間	○	・歩道が整備されることにより、歩行者の安全な通行が確保。		
	社会全体への影響	住民生活	○	・当該区間の整備により高速道路の利用促進につながることから、周辺道路環境の向上が見込まれる。		
		地域経済	○	・周辺の工業団地の工場等から高速道路へのアクセス時間の短縮が見込まれ、サプライチェーンの強化を支援。		
		災害	○	・第2次緊急輸送道路のネットワークが強化。		
		環境	—	・注目すべき影響はない		
		地域社会	○	・工業団地へのアクセス向上にも寄与することから地域の活性化が期待。		
	事業実施環境	○	地元市（牛久市、龍ヶ崎市）から早期開通の要望を受けている。			

採択の理由

事業主体である茨城県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.9と便益が費用を上回っており、事業の採択の前提条件が確認できる。  
また、竜ヶ崎阿見線の開通により、交通渋滞の緩和や企業活動の更なる発展や地域経済への効果が期待でき、事業の必要性・効果は高いと判断できる。  
以上により、本事業は平成31年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。